

令和6年度愛知県立西春高等学校学校評価

本年度の 重点目標		1 主体性を育む 2 キャリア形成を支援する 3 自己肯定感を高める 4 教職員はメリハリのある勤務を心がける		
項目（担当）		重点目標	具体的方策	評価結果と課題
総務 （総務部）	①	防災減災体制の整備と充実	・防災減災対策の強化 ・北名古屋市との連携と外部講師の活用 ・防災委員会の充実	・地震防災マニュアルをより実際の想定被災状況に即したものに見直したい。 ・北名古屋市からの資機材提供による避難所設営体験や愛知県建設業協会の協力による「土のうづくり授業」を実施することができた。 ・文化祭での防災クイズや能登地震被災職員インタビュー、生徒防災委員会の発案による生徒が主体的に取り組むシェイクアウト訓練の実施など、積極的な活動を行うことができた。
	②	魅力ある学校像の発信	・学校説明会の充実 ・新しい広報体制の確立	・学校説明会の参加者アンケートは概ね良好であった。 ・本年度より、学校案内冊子とともに学校案内チラシを作成し、冊子とチラシの両方を活用した広報活動を行うことができた。まだ本校の魅力を十分紙面に反映できていないところもあると思われるので、紙面構成の工夫に努めたい。
学習指導 （教務部）	①	主体性を育む授業実施と評価法の研究	・主体性を育むための授業展開とその評価法を研究し、生徒が主体的に活動した内容を、より実態に沿うよう評価するしくみを模索する。	・「主体的・対話的で深い学びを実現するための探究的な授業づくりに関する研究」の研究協力校として、県総合教育センターと協調しながら主体性をはぐくむための授業研究を行った。また、校内の現職研修を年2回実施し、全教職員を対象に研究内容を共有することで、授業改善や評価方法を検討する土壌をつくった。
	②	授業の創意工夫と研究授業期間の充実	・研究授業期間の内容を見直し、主体的、対話的な授業方法を校内で共有する。	・今年度は研究授業期間内で「主体的・対話的な授業」に特化して、各教科に研究授業を実施していただいた。科内で研究授業の内容を情報共有することで、「主体的・対話的な授業」についての理解を深めた。また、今年度は他教科の見学を積極的に推奨した。見学後の振り返りメモを作成し、他教科の視点から授業改善ができるように内容を見直した。
生徒指導 （生徒指導部）	①	社会規範の確立といじめの防止	・身近な交通のマナーや規則の遵守から公共性や社会性の拡充を図る。 ・さらに、いじめを許さない健全な心の育成を図る。	・交通マナーに関する外部からの連絡が多く、例年に比べ2学期の件数が特に目立った。また交通事故件数は増加してはいないものの依然高止まり傾向にある。いじめに関しては、担任と生徒との連携や初期対応がうまくいっている。
	②	学校生活の充実	・より良い学校生活に向けて、校則の見直しや改訂をする。	・新制服制定や行事でのスマートフォン使用など、生徒と意見交換しながら学校運営を行うことができた。実際に運用して見えてきたことなどを来年度に向けて、再度議論していきたい。
進路指導 （進路指導部）	①	学力向上を目指す学習指導・自ら考え夢を実現する進路指導の充実	・生徒の進路意識の高揚を図るガイダンスや進路研究の実施 ・入試問題研究や模試結果の分析に基づく指導の充実 ・基礎早朝テストを通じた基礎力の定着と学習習慣の確立	・進路検討会において、検討すべきことを精選して実施した。結果、目的がはっきりし、短時間ではありながらも確認すべきことは確認できた。生徒向けのガイダンスや説明会は概ね問題なく実施できた。また、1・2年生で夢ナビやオープンキャンパスへの働きかけがなされており、意識付けができたのではないかと。 ・基礎早朝テストについては、様々な面で改善すべきところがある。ただこなすだけになっていないかが危惧するところである。
	②	多様化する大学入試への対応	・生徒、保護者等に対する適切な情報発信 ・最新の情報の正確な把握	・新課程初年度ということもあり、そのことも踏まえた説明ができたのではないと思われる。 ・推薦入試の基準をはっきりと提示していなかったため、トラブルが生じてしまった。今後は、生徒・保護者等に示していく。
保健厚生 （保健厚生部）	①	教育相談の充実	・教育相談と特別支援の分担を明瞭にすることで、個々の生徒への対応を充実させる。	・個別の支援計画・指導計画を作成する生徒数は少なかったが、教育相談では指導が困難な生徒がいて対応に苦慮しつつも学年主任会、担任会、生徒指導部と協力して最大限の努力をして対応できた。負担が一部の教員に偏らないような工夫が課題である。
	②	環境美化活動の充実	・環境負荷が小さい清掃方法について検討しつつ、環境美化に対する生徒の意識を高める活動を行う。	・ガラスクリーナーに頼らず新聞紙を利用したガラス清掃や、合成洗剤を使用せずセスキ炭酸ソーダを利用した拭き掃除を広めることができた。複数の清掃監督を持つ教員が多く、清掃時に指導が行き届かないこともある中、生徒のモチベーションを上げていくことが課題である。
生徒会活動 部活動 （特別活動部）	①	学校行事の充実	・行事委員の活動を充実させ、生徒が主体的に取り組むことのできる学校行事となるように工夫する。	・文化祭、体育祭、球技大会など学校行事の企画、準備において生徒が主体的に行動し、運営することができた。写真撮影におけるスマートフォンの利用など生徒からの提案についても生徒指導部と連携を図りながら実施することができた。
	②	生徒会活動の充実	・生徒議会の効率的な運営と各委員会との連携を充実させる。	・各委員会の検討事項を行事の運営に反映することができた。生徒議会を通じて生徒からの要望をできるだけ多く検討できるようにしたい。
図書情報教育 （図書情報部）	①	読書活動の推進と適切な配架と除籍	・読書に親しみを持てるような啓発活動を行う。積極的に配架と除籍を行う。	・新入生に対して、年度始めに図書室にてオリエンテーションを行うなど啓発活動を行った。昨年度に続き1000冊を超える書籍の廃棄、更新を行い図書館資料の質をさらに高めることができた。
	②	I C Tの利用の推進	・I C T（ロイロノートやTeamsなど）の効果的な活用を図る。	・I C Tを授業で積極的に活用したり、デジタル採点を利用したりする教職員が増えてきた。アンケートや補習講座の登録など集約作業をTeamsを活用し校務効率化を図ることができた。教員端末の更改が本年度行われたが、スムーズに引継ぎができたと思われる。
学年指導 （第3学年）	①	社会を生き抜く力の育成	・今年度成人になることを自覚させ、主体的で責任感のある行動力を育成できるよう働きかける。	・進路指導やその他の場面において、責任をもって決断し行動できるよう働きかけをおこなった。西春祭ではリーダーの生徒を中心に主体的な活動ができ、上級生らしい発表ができた。下級生にも良い影響を与えられた。
	②	目標の実現に向けての指導の充実	・丁寧な進路指導のもとに、主体的な選択を促す環境を整える。	・各教員が持ち味を活かし、補習や授業、その他の場面で生徒や教員間でのコミュニケーションを大切にしながら進められた。自習ができる学習環境もできる限り整えることができた。
学年指導 （第2学年）	①	規則正しい生活習慣と授業を中心とした学習習慣の確立	・授業に集中する環境を作り、自ら学ぶ姿勢を持った学習習慣を確立させる。	・生活習慣や学習習慣をしっかり確立できている生徒が多いが、一部で確立できていない生徒も見られた。生徒によって意識の度合いはまちまちであり、生活習慣や学習習慣の重要性を伝えることの難しさを感じた。
	②	学校活動における主体的行動力の育成	・様々な活動を通じて、主体的に考え積極的に行動できる力を養う。	・学校祭においては、中心学年としての責任感のもと下級生を先導し、各自が持ち味を出した活動ができた。
学年指導 （第1学年）	①	規則正しい生活習慣の確立	・遅刻、欠席をしない、時間、提出期限を守るなど学校生活の正しい習慣化。	・遅刻、欠席が少なく、集会など集合状況も良好であった。学校生活は、ほぼ正しく習慣化されたようだ。
	②	自ら考え行動する態度の育成	・自ら考えさせることで、能動的に行動できるよう促す。	・学校行事やグループ学習などで、積極的に発言、行動できる生徒が半数ほど見られた。リーダーシップを取れる生徒が目立つなか、裏で支えるタイプも多く見られた。
総合評価			・研究授業期間では教員相互の積極的な授業参観を呼びかけた。ICTを活用した授業を中心に、教員同士の情報交換や共有が行われていた。 ・西春祭でのスマートフォンによる写真撮影や3年生企画の実施など、生徒からの要望を実現できたことで、主体性の育成及び自己肯定感の高揚につながった。 ・特別支援教育委員会や学年主任会などを通して、生徒の情報共有を密に行った。心配な生徒に対しては、早期の対応や外部組織との連携など組織的に対応することができた。 ・考査期間中の定時退校日を増やしたり、主任を通して計画的な業務の遂行を依頼したことで、多くの教員にタイムマネジメント意識の向上が伺えた。	